

天気のみカタ

九州はひとつ。でも宮崎だけ天気が違う?!



さかい しんいちろう
酒井 晋一郎

神奈川県川崎市出身
気象予報士・防災士
10年あまり官公庁に勤めたのち、気象キャスターに転身。
テレビ宮崎「UMKスーパーニュース」で天気情報を担当。
天体観測も趣味で、快晴の夜は惑星や銀河、星雲・星団の写真撮影に夢中。

九州は、梅雨の時は梅雨前線、夏から秋にかけては台風の影響を受けやすく、雨が降りやすい地域です。

2017年以降は毎年のように九州内で大雨特別警報が発表され、大雨による災害が発生するたびに、九州がひとつとなって大雨に立ち向かってきました。

また、九州・山口各県と経済団体が構成する「九州地域戦略会議」では、九州のロゴマークを作成し、九州が一体となった様々な分野における取組み、九州の連携する姿をPRするなど、政治・経済においても九州の一体感は高まっています。

「九州はひとつ」という表現は理解しやすく、九州各県の天気の違いも似ていると思込んでいたが、気象キャスターとして宮崎県に来てからはその考えが一変しました。
九州の中で、宮崎県だけ正反対の天気になることが頻繁に起こるんです!

九州山地とは?

九州各県と宮崎県の天気を分ける要因は、主に九州



図1

州の中央部から南部にかけてそびえる、九州山地や霧島山の存在です。(図1)

宮崎平野をぐるりと囲むように山地が連なっているため、山地の南東側に位置する宮崎県と、北西側にあたる九州各県とで地理的に分けられています。

このため、空気が流れ込む方向によっては、九州の中で宮崎県だけで雨が降る、という現象が起こります。では、具体的な事例を見ていきましょう。

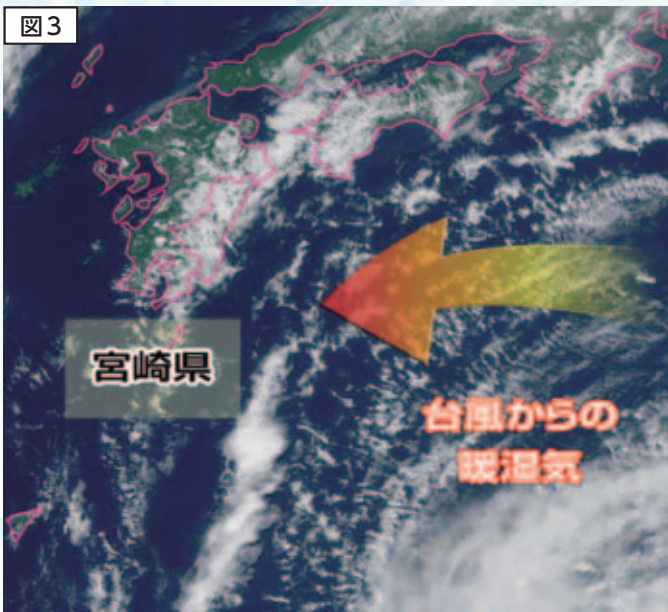


図3

宮崎だけ晴れている?!

(2016年1月24日のケース)

次に、九州に西風が入るケースです。九州は全国的にも温暖な地域ですが、冬に西からの季節風が強いときは、東シナ海で発達した雪雲が九州に流れ込んで大雪になることがあります。

西高東低の強い冬型の気圧配置になった2016年1月24日(図4)は、西から強い寒気が強く流れ込み、24時間降雪量は長崎で18センチ、鹿児島で14センチに達するなど、記録的な大雪となりました。

衛星画像(図5)をみると雪雲が九州全体を覆っていますが、宮崎県の沿岸から日向灘にかけて雲が薄くなり、雪雲が途切れています。

宮崎の24時間降雪量は0センチで、一日の日照時間も7時間を超えていたことから、大雪の九州の中で宮崎だけは晴れの天気となりました。(表1)

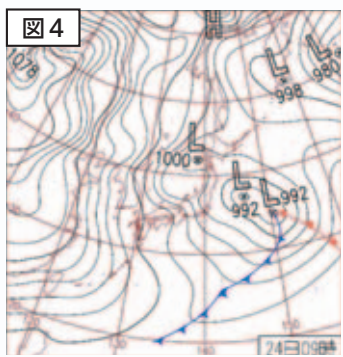


図4

か気づけないものと思います。

かく言う私も、九州の天気における九州山地の役割や、九州の中で宮崎県の天気の特徴について、こちらに来てから初めて気が付きました。

もしかしたら、皆さんのお住いの地域も局地的な天気の特徴を持っている可能性があります。

地形に注目しながら探してみると、面白い発見があるかもしれませんね。

終わりに

全国の天気予報で紹介される九州の地点は福岡と鹿児島になることが多く、九州の中で宮崎だけが正反対の天気になっていることになかなか

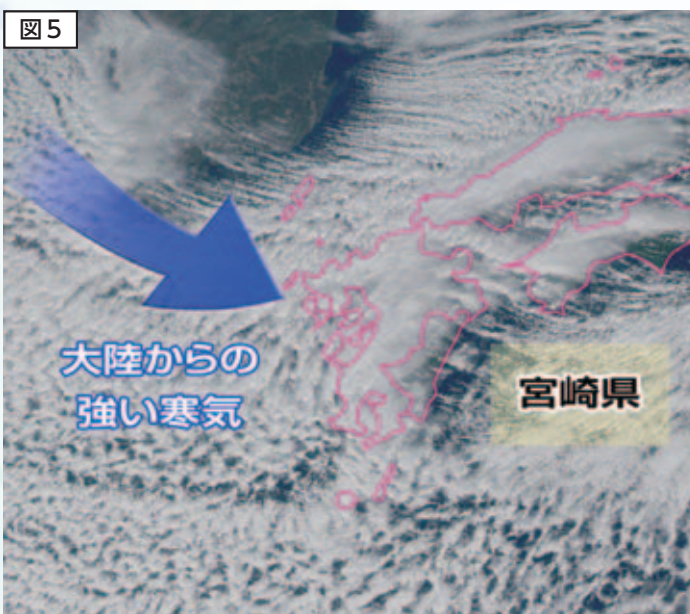


図5

参考資料

- 図1 九州の地図出典：国土地理院ホームページ
 - 図2 2019年8月12日 午前9時の天気図
 - 図3 2019年8月12日 正午の可視画像
 - 図4 2016年1月24日 午前9時の天気図
 - 図5 2016年1月24日 正午の可視画像
- 表1 九州各地の気象状況(2016年1月24日)
※アメダスデータを筆者加工

観測地点	降雪量	日照時間
福岡	3センチ	0.0時間
佐賀	8センチ (観測史上10位タイ)	0.0時間
長崎	18センチ (観測史上1位)	0.0時間
熊本	4センチ (観測史上7位タイ)	0.1時間
大分	2センチ (観測史上10位タイ)	4.3時間
宮崎	0センチ	7.4時間
鹿児島	14センチ (観測史上6位タイ)	0.2時間

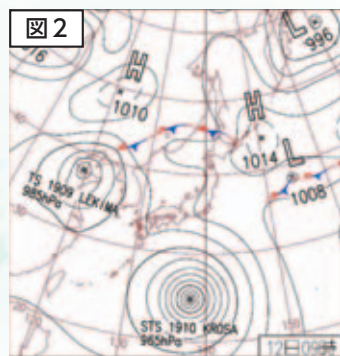


図2

ただ、衛星画像(図3)では、夏空が広がる九州の中で、宮崎県を中心としたエリアでは曇り空になっていることがわかります。

台風10号が日本の南の海上を北上していた2019年8月12日午前9時の天気図(図2)では、台風の中心付近は九州の南端からかなり距離が離れています。

